

件名	令和5年度 第2回小千谷市地域公共交通協議会	第 2 回
		前 回 令和5年6月29日
日時	令和5年9月21日(木) 13:30~15:30	
場所	小千谷市役所 大会議室	
出席者	委員17名中13名 別紙委員名簿のとおり(加藤委員は急遽欠席)	
	代理出席: 神田委員(代理: 細野氏)	
	欠 席: 吉田委員、水口委員、加藤委員、小嶋委員	
	事務局(にぎわい交流課) 佐藤課長、大平課長補佐、安達係長、関、高橋	
配布資料	別紙のとおり	
会議等の結果	<p>会長進行</p> <p>会 長: 会議成立確認を報告願う。 事務 局: 本日の会議出席者数は全委員17名中13名。 規約第10条第2項の規定により、議員の過半数の出席により会議が成立していることを報告する。</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>1. 令和5年度補正予算について</p> <p>事務 局: 【資料1】説明 第1回協議会で事業計画案1から3について承認いただき、今回4を追加するもの。新潟県と共同で定額運賃タクシー実証実験事業を実施する。1ヶ月ごとにタクシーを定額で乗り放題とするサービスを、今年度事業計画へ追加したい。</p> <p>【資料1-2】説明</p> <p>(1) 歳入 小千谷市からの負担金250万円の追加 県からの補助金250万円を追加 計500万円を当初予算に補正増をするもの。</p> <p>(2) 歳出 事務費、主に消耗品費、印刷製本20万円 運行費の補助480万円 明日9月22日小千谷市議会にて補正予算の成立を見込んでいる。</p> <p>2. 定額運賃タクシー実証実験事業の実施について</p> <p>事務 局: 【資料2】説明 タクシーの実証実験は、昨年度糸魚川市と佐渡市で同じような実証実験を行っており、今年度小千谷市で取り組みたい。 アンケートを取り、今後の公共交通の移動に対するニーズを把握したい。実証実験の内容については、来年度協議会において実績を報告し、検証作業を行う。今回新潟県からの補助があり実証実験を行うものであり、来年度以降継続するかどうか今の所未定。</p> <p>副 会 長: 抽選に外れた方を次月優先することはあるか。 事務 局: 抽選に外れた方が翌月も定期券を希望する場合には、できるだけ優先して利用できるようにしたい。できる限り多くの方から利用いただきたい。</p>	
	(裏面につづく)	

- 副会長：半径約 2.5 キロとすると、移動は約 3 キロ。タクシーだと料金は約 1500 円、往復 3000 円。定期券が 1 万円の場合、週 1 回乗れば元が取れる。予算は全員 30 回乗った場合の金額。中には数回しか乗らない場合もある。
5 ヶ月間で予算額に届かない場合、予算を超えない範囲で人数を増やせる可能性もある。
- 事務局：利用状況を見ながら予算の範囲内で考えていきたい。
- 委員：大変これは期待できる。だが、携帯電話を所持していない高齢者も多い。用事を済ませる間タクシーを待たせることができないなら、例えば 30 分後にまた来てもらえるよう融通をきかせることはできないか。
- 委員：実際に実証実験が始まってみないとわからないが、タクシーの運行は常に予約する電話の早い順に運行しているため、30 分後に行けるか行けないかわからない状況。混んでいる時間帯だとなおさら何分後に来てほしいという要望に応えられない。
- 事務局：現在タクシーは利用者が多く、2 社ともこの時間帯にタクシーが出払っていることが多いと聞いたため、予約ではなく再度電話する方法とした。
- 委員：携帯電話を所有していない人は、例えば病院ではタクシーを呼んでもらえるが、お店では不可能では。
- 事務局：イオンは入口にタクシー会社との直通の固定電話機がある。
- 委員：イオンは直通電話、原信やコメリなどの既存の大型店では、サービスカウンターでタクシーを呼んで利用する方も多い。携帯電話を持っていなくても、タクシーで出かけられる人なら心配ないように感じている。それよりも、タクシーの台数が限られているため、20 人が 30 回使用する需要に答えられるか。定期券を買っても乗れない、予約をしてもタクシーに乗れないという事態を心配している。タクシーの台数としては、中央タクシーでは昼間が 4~5 台、イベントのない土日は 2~3 台ほど。小千谷タクシーはおそらくその 3~4 倍と思われる。
- 副会長：小千谷タクシーのほうが車両数が多いとなると、中央タクシーに電話がかからない可能性もあるのでは。一括で電話を受けられると良い。
- 事務局：タクシー会社 2 社と協議した際話題になった。お互いに予約がたくさんある場合、もう 1 社の方に電話を誘導するようなこともあると聞いたため、窓口としては 2 社とした。
- 副会長：予約ができなくなると、電話して来てもらう。何割位すぐ来てもらえるか。
- 委員：今までタクシーを全く利用していない人が 20 人券を買うのではないと考えている。固定客も多いので、その方も定期券を買う。そのため、ある程度は対応できると思うが、小回りが利かないかもしれない。今は一般のお客でも予約を取っていない。用事が済むまで待っていて欲しいといわれることもあるが、メーターが回っているため 30 分で 1,000 円以上になってしまう。新たに電話してもらおうほうが良心的だと考えている。予約を取ってしまうと動ける車が動けない状態になる。
- 副会長：割とすいている時間はあるか。
- 委員：ある。
- 副会長：帰りの予約ができる等サービスをつけて、空いている時間帯に誘導したらどうか。空いている時間限定で、帰りの予約もできるようすれば需要が均一化して効率が良くなるのでは。混んでいる時間では、数時間後の配車になるようなこともあるか。
- 委員：混雑時の待ち時間は 30~40 分程度。例えば、電話した際に混んでいて 30 分待ちになった場合、自宅の方は待てる方が多い。皆さんタクシーを上手に利用されている。今回の実証実験では、固定客だった方が、もう 1 社を利用することも考えられる。
- 委員：できれば電話を使わなくても何分後かにまた配車してもらえるような柔軟な対応をしてもらえたらなおよい。
- 委員：空いている時間帯ならいいが、その車を 30 分後に配車するとなると他のところに行けない。その時間に行かないといけないとなると、他の場所に行くことができなくなる。電話を受けた順に回すのが効率よく回す原則。間帯によっては対応できるかもしれないが、電話を受けた順に対応したい。

会 長：実証実験なのでそういった問題点を洗い出すのも事業の目的である。
委 員：実証実験に街中を選んだ理由は。
事 務 局：中山間地の公共交通も当然大事だが、比較的短時間で利用できるようなやり方を想定している。
例えば、南部地区や東山地区まで行くと往復約 1 時間かかる。多くの方に利用頂くためには、1 回の利用時間、利用距離が短いほうが良い。
委 員：バス停を利用できない方を主に対象とするなら、対象者の括りをもう小さくする方がわかりやすいのでは。
副 会 長：相乗りはできるか。
事 務 局：定期券を持っている方の家族や付き添いなどが一緒に乗る場合は、タクシーの定員内であれば可能としたい。友人を乗せて目的地までいくというのは対象外。
定期券を持ってる友人同士で乗車するのは可能。
副 会 長：相乗りができるのであれば、すいている時間に予約できれば相乗りで帰れるのでは。
事 務 局：予約は想定していなかった。
副 会 長：5 か月あるのでいろいろと試してみると良い。
委 員：ボランティアで送迎をしている方がいるが、情報交換しているか。
事 務 局：サンラックのボランティアか。事前の情報交換はしていない。
委 員：実証実験を行うことで影響がでないか。意見交換していただきたい。
事 務 局：実験の中でサンラックの事業にどのように変化があるか確認したい。
副 会 長：実証実験をして、どのようなデータを取るのか。
事 務 局：住所氏名やどのような利用をしたか。どこからどこまでのニーズが高いか。その他利用者から 1 ヶ月終了後にアンケートを提出してもらい、どのような理由で利用したか等聞き取る予定。他にどのような情報を取ればよいか。
副 会 長：予約して、いつ配車されたかがわかると良いのでは。
事 務 局：タクシー会社から事前にどの時間が忙しいかは聞いている。それが数値としてでるかタクシー会社と協議したい。
委 員：タクシー定期 30 を知ったうえで利用しなかった方の声も収集できると良い。次への改善へつながる。バスで十分という人もいるかもしれない。
事 務 局：市内の人工透析で通院している方には福祉課からダイレクトメールを出した。その方々にアンケートを取ることはできる。色々な方の意見を聞きたいと思う。

異議なし：承認

3. 地域公共交通計画について

事 務 局：【資料 3】説明

6 月 29 日開催の令和 5 年度第 1 回公共交通協議会にて 11 ページの公共交通の課題まで議論を行った。今回は主に 12 ページ以降について。

前回資料からの変更点は次のとおり。

6 ページ

越後交通営業所管内の路線バスの運営状況の数字を変更。前回の資料の数字は 4 月から 3 月の数字だったものを、バスの事業年度に合わせ 10 月から 9 月の数字に変更。市内を運行する路線バスの役割区分を追加して掲載。

8 ページ

地域公共交通の確保維持の必要性を追加。

9 ページ

令和 5 年 2 月 21 日開催令和 4 年度第 5 回の地域公共交通協議会で報告した内容をまとめたもの。アンケート結果をもとに、11 ページの課題に反映させた。

11 ページ

第 1 回公共交通協議会で議論した内容に 1 点追加。社会情勢等からの課題の○4。前回協議会の佐野副会長よりいただいた意見をいただき加えた。

12 ページ以降新規内容。

(次のページへつづく)

13 ページ

乗合タクシー利用者数が現況値 2636 人、目標値が 6600 人。令和 4 年度の利用者数は 2636 人だが、今年度路線バスの塩谷線廃止に伴い、乗合タクシーが 1 路線増加した。塩谷線は現在非常に利用率が高いため、塩谷線の利用者数を足しあげてこの目標値とした。

委員：車の力は強いもので、公共交通を利用する方は減っていく。その反面循環バスのように、新たなニーズを拾っていけばやれるものがあるかも知れない。

委員：乗合タクシーの塩谷線が増え、利用者が多く動きもよくなり喜んでいる。これから冬になるが、公共交通は冬が課題。少ない数の 4WD 車に対応している。昔タクシーは 24 時間営業していたが、現在中央タクシーは夜 10 時頃まで、小千谷タクシーは夜 2 時 3 時頃までの営業。利用者は苦慮している。

委員：定額のタクシーが、路線バスに影響がどの程度あるのか。タクシーの利用形態とバスとの兼ね合いも何か見えてくるかもしれない。定額タクシーは面白い取り組みだと思う。

委員：小千谷駅北駐車場については、かつてこの駐車場は商店街のための駐車場と聞いたこともあるが、駅の駐車場として整備を進めるのか。

電車の時間になると送迎の車でロータリーが混んでおり、車の止め方によっては危ないこともある。バリアフリー化に向けて、事故が起こらないよう整備していくのは課題。

事務局：駐車場の扱いについては、表現について所管課に確認する。送迎の車の駐停車については、以前越後交通様からバス停まで広がって停まっている車は何かならないかという話を受けたことがある。バス用の白線を聞かせて欲しいとお話いただいた経緯もある。引き続き越後交通様と話を進めていきたい。いずれにしても事故のないようにしていく。

委員：ありません。

委員：駅のバリアフリー化に期待している。

委員：バスの利用を呼びかけて 1 人でも多く乗ってもらうことが必要。私は今日バスに乗って来たが、3 人しか乗車しなかった。皆高齢になっても自家用車を持っている。地域としてもバスの利用を促すことが必要。

委員：片貝まつりの臨時バスが運行できなかったことで、バスの乗務員さんの確保が難しくなっているのではと感じる。大きな課題なので、今後考えていかなければならない問題。

委員：片貝まつりの臨時バスについては、特に労務的な面の話で、前日の運行終了から 8 時間空けなければならない決まりがあり、次の日の朝の便を削ることができないため、深夜の運行が難しい状況である。

委員：国の方でも 10 月 1 日から制度改正で新しく法律が変わる。その中の 1 つのコンセプトとして打ち出しているのが共創。例えばショッピングセンター等、実際の目的地になるような施設の方との協力関係を築く等交通以外の分野との連携についてももう少し検討を進めていくと地域交通は良くなると思う。

6 ページに追記の路線バスの役割区分については、今後の目標や方針に近いと思われる。整理するのであれば、公共交通の目標の方に記載を移すのはどうか。例えばアンケートではなく、学生に直接ヒアリングできないか。サービスや、こういう路線があったらいい、こんなダイヤだったらありがたい、充電器が備えてあれば乗りやすい等の細かい声を聞く機会があると、取り組みが深まると思う。

事務局：6 ページの件については、調整させていただく。

直接のヒアリングについては、来週市内の高校生が授業の一環で小千谷のまち作りについて聞きにくるので、公共交通についてヒアリングしたい。

委員：13 ページの目標値設定の考え方について。路線バス運行系統数以外の目標設定の考え方はこの数字を使うというような紹介に見受けられる。項目通り、目標設定の考え方と現況値と目標値を区別すると丁寧。

乗合タクシー利用者数の沿線人口あたりの利用者数とは。

事務局：利用者を記載してあるため、沿線人口あたりとするのは適切ではないため訂正する。乗合タクシーはどちらかというと山間地を走って運行しているため、停留所のある町内の人数がどんどん減ってきているという現状。沿線人口については整理したい。

(次のページへつづく)

委員：R5などと表記している部分は漢字で令和と表記するとよい。

事務局：訂正する。

委員：別の観点から話をする。今は家に運転手がいる時代。それ以上の利便性がないのが実情。その中でどうやってバスに乗ってもらうか。1回もバスに乗ったことない人に乗ってもらうのは難しい。それはもう根本的なところで教育に近い。地域に愛着を持つのにバスは良い。地域のバスで出かけて、バス停の近くで何かがあり、思い出に残る。利便性ではない尺度で、訴えかける。バス路線を知るだけでも面白い。

バスであそこに行ける、帰りのバスまでだいぶ時間がある。待つ時間も楽しい。そういう時間の余裕を楽しめるのがバスである。

副会長：計画は非常によくまとまっている。小千谷らしさを肉付けしていければ尚よい。

異議なし：承認

4. その他

会長：今後は10月下旬からパブリックコメントを約1ヶ月程度かけて意見をいただく。その後計画を年度内に策定する。

事務局：第3回公共交通協議会について、12月22日金曜日午後1時半から行いたい。本日協議した小千谷市地域公共交通計画について、次回のパブリックコメントを踏まえ、次回の協議会で完成させる予定とする。

5. 閉会

以上